

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成 28 年度)

年 月

東京都福祉サービス評価推進機構

公益財団法人東京都福祉保健財団理事長殿

〒 171-0014

所在地 豊島区池袋 2-23-23 白鳥ハイツ 102 号

評価機関名 特定非営利活動法人福祉推進機構アシスト

機構 07 -

認証評価機関番号 03-6906-5231

177

電話番号 理事長 島田久平

代表者氏名

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	島田久平	福祉、経営	H0702042
	②	竹村恵子	福祉	H0701032
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	放課後等デイサービス		回食事を対象にする	
評価対象事業所名称	友愛こどもクラブとことこ		指定番号	
事業所連絡先	-T	198-0001		
	所在地	東京都青梅市成木 2-107		
	・	0428-74-5453		
事業所代表者氏名	管理者内山敏			
契約日	2016 年 7 月 8 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2016 年 9 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2016 年 12 月 3 日			
自己評価の調査票配付日	2016 年 8 月 23 日			
自己評価結果報告日	2016 年 12 月 3 日			
訪問調査日	2016 年 12 月 9 日			
評価合議日	2017 年 1 月 14 日			
コメント(利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	友愛こどもクラブとことこは、友愛学園児童部に併設された定員 10 人の放課後等デイサービスである。第三者評価は当施設は初めての受審であるため、経営層とは評価の進め方などについて事前に丁寧な打ち合わせを行った。利用者調査はアンケート方式で行った。調査票は、施設から配付してもらい、回収は評価機関が用意した返信用封筒で、評価機関に直接郵送して頂いた。訪問調査では評価者 2 人が管理者及び児童発達支援管理責任者に面接し、業務内容や支援の実施状況について説明を受け意見交換を行った。			

評価機関からこの報告書と併せて紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。本報告書の内容のうち、

(蚕) 機構が定める部分を公表することに同意します。

○別添の理由書により、一郎について、公表に同意しません。

○別添の理由書により、公表には同意しません。

年

月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<p>事業者が大切にしている考え(事業者の理念・ビジョン・使命など)のうち、特に重要なもの(上位5つ程度)を簡潔に記述(関連カテゴリー1 リーダーシップと意思決定)</p> <p>●経営の基本理念 わたしたちは、障害を持つ子が健やかに成長し自立した生活が出来るように支援します。●基本方針 (1)子どもたちの最善の利益を考える(利益擁護) (2)子どもたちの健やかな成長を支える(信頼感・安心感・満足感) (3)日々の観察から肯定的な子ども像を捉える(正しい特性理解・潜在能力の助長) (4)保護者を共同の援助者とする(学び合う意識) (5)できる限り長&lt;家庭生活が送れることを考える(生まれた地域で生きるを支える)</p>
2	<p>期待する職員像（関連カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>・誠実であること。主体性を持って考え、判断し、行動し、学ぼうと言う姿勢の人材。組織の一員として最低限の報・達・相ができ、周囲の意見を傾聴し、独善的な言動に走らず謙虚に組織の中で能力を表出できる人材。</p>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>・国民の税金により仕事をしている以上社会に向けて自分の仕事の説明責任が伴うこと、生命を預かっていることの重さを常に意識してほしい。そして正しい倫理観の下、支援を必要としている人とその家族に寄り添い支えてい&lt;気概を持ち続けてほしい。</p>

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	放課後等デイサービスガイドラインに沿った則った適切な運営と支援を行っている
	内容	心身の変化の大きい小・中・高等部の一人ひとりの障害や行動特性に配慮し、本人の要望を重視しながら楽しく活動に参加できるよう療育の視点に立ち運営と支援を行っている。「とことこ」の三つの柱を掲げて、障害があり放課後の過ごし方に支援が必要な子どもに様々な体験活動や家庭とは異なる環境を提供して発達支援をしている。また、子どもの地域社会への参加を進めるため他の子どもを含む集団の中での育ちを保障し、保護者支援にも取り組んでいる。放課後等デイサービスが子どもの居場所となり、保護者や兄弟の時間の保障もできるようになっている。
2	タイトル	「遊びを通して学ぶ」のもとに、子どもたちが様々な経験ができるようにプログラムを組んでいる
	内容	子どもたちの様々な経験のため、活動プログラムの提供に取り組んでいる。身近に都心部では決して叶えられないかけがえのない山や小川などの自然資源があり、園の広大な芝生の庭では子どもたちが走り回り寝転んで、感覚統合が養われ心のリラックス効果が見られている。創作活動では表現する喜びを体験し、地域交流では社会経験の幅を広げている。余暇活動の提供では、自分で選択して取り組む経験を支援している。本人と家庭の都合により他の放課後等デイサービスを併用する子どもについては、他事業者と支援計画等の情報を交換して連携を図っている。
3	タイトル	時間を惜しまずに子どものためにやるべき支援を尽くそうという職員の姿勢がみられる
	内容	「主体性を持って考え、判断し、行動し、学ぼうという姿勢の人材」を人材像に挙げて、職員育成に取り組んでいる。毎年、業務分担表を作成し、職員の業務の明確化を図りながら、日常の業務運営に当たっては、職員が主体的に判断・実行できるよう事業運営を行っている。このため、職員の日頃の気づきや工夫についても、支援スタッフ会議やケース会議、昼会で活発な意見交換が行われている。実現できそうな提案は、極力計画に生かしている。職員に一体感があり、時間を惜しまずに子どものためにやるべき支援を尽くそうという職員の姿勢がみられる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	活動プログラムがより豊かで安全なものになるよう有償ボランティア等の導入を期待したい
	内容	都心から離れた青梅市もまた、若年人口が減少している。就労可能な年齢が高くなり、いわゆるボランティア世代の幅を広げてとらえる必要がある。例えば、夏休みの川遊び等の野外活動には大勢の目と手により安全確保が必要で、年齢を問わず地元の地理に精通する人、野菜づくりには土に親しんでいる人、調理体験には調理経験がある人等の協力が欲しい。互いに、この部分を助けてほしい。その部分なら力を貸したいという要望や希望を調整し、交通費の実費支給を行い有償ボランティアとして位置づけて、子どもたちの社会性を広げる支援に繋げていきたい。
2	タイトル	適切な療育環境の提供に向けて速やかな環境整備を期待したい
	内容	平成 24 年 6 月事業を開設し 5 年目を迎えている。管理者は事業所が取り組むべき方向性を職員に周知徹底し、計画の着実な実行に取り組んでいる。今年度の重点課題に「放課後等デイサービスガイドラインに則った適切な運営と支援」を掲げ、職員の意識改革を図りながら、活動プログラムの構築、適切な療育を提供するための環境整備に向けた検討を進めている。現在の建物は、指導訓練室等のスペースの課題や、バリアフリー化への配慮、トイレの課題もある。適切な療育環境の提供に向けて改築を含めた環境整備を進めている。速やかな対応に期待したい。
3	タイトル	さらなる支援力の向上に向けた取り組みを期待したい
	内容	職員研修に、力を入れて取り組んでいる。管理者は、個別面談記録票を基に職員と面談を行い、非常勤職員を含む全職員を対象に個別育成計画を策定している。職員個々のスキルアップを目指す研修、業務課題に即した研修を視点に、法人研修、事業所内研修、外部研修を計画的に進めている。一方、小規模事業所であるため、職員個々の力量が大きく影響する中で、子ども個人への対応に目が行きがちになり集団としてみていける支援力が課題になっている。ガイドラインに沿った支援の向上に役立てていくためにも支援力の一層の向上に向けた取り組みを期待したい。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-6	家族との交流・連携を図り支援を行っている
タイトル①	基本方針の3本の柱のひとつに保護者支援をおき、家族等からの要望に応じている	
内容①	<p>保護者が安心感を持って家庭での子育てができるように、悩みごと等の相談に適切な助言をするなど心のよりどころになるよう努めている。保護者懇談会や連絡帳の交換、送迎の時間を活用して利用者の様子を伝え、直接要望を聞いて可能な限り具体化している。このことが子どもの自信と保護者の満足につながり、「いつも本人の視点、希望に沿う対応をしているのを強く感じる。子どもがいつも楽しそうに出かけていくので安心できる場所だと思う」との声が寄せられている。また、小学生を中心に家庭事情等を勘案して、曜日固定の利用者の増員をしている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-5	子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるよんな取り組みを行っている
タイトル②	活動プログラムに子どもが好む調理を取り入れて、食事を楽しむ機会を作っている	
内容②	<p>開所時間は平日14時から17時15分、学校休業日や長期休みには10時から16時までとしている。児童部食堂での昼食を希望する場合は依頼に応じている。一方で、調理体験を希望する声に応じて、長期休み等に万全の準備の下に子どもたちと昼食・おやつ作りを行い、12月はクリームシチューを作った。子どもと職員が調理を分担して野菜の皮むき・カットから始め、肉と野菜を炒めルーを投入し、それぞれの力を寄せ合って完成させている。事前に保護者から情報を得て「シチューは苦手、スープなら食べる」等の声に応え、全員に活動報告を行っている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	4-2-1	利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる
タイトル③	不審者対策やヒヤリハットを充実させて利用者の安全確保に取り組んでいる	
内容③	<p>平成28年度事業計画に「安全管理」の項目を設定して取り組んでいる。消防計画に基づく防災訓練を月1回実施している。防災委員会では火災現場ビデオ研修を行っている。障害者施設での事件を踏まえて不審者対策を進め、防犯カメラの設置を行った。また、送迎時事故対応マニュアルを活用し、送迎時の事故対応には引き続き万全を期している。一方、ヒヤリハット報告を活用した安全対策に取り組んでいる。ヒヤリハット会議を開催し、事例を集約・分析し安全対策に生かす取り組みを行っている。今年は半期で約30件の報告がある。</p>	

